

第 1 9 0 5 回 埼 玉 県 教 育 委 員 会 定 例 会

- 1 日 時 令和 3 年 4 月 2 2 日 (木) 午前 1 0 時 開 会
午前 1 1 時 8 分 終 了
- 2 場 所 埼 玉 県 教 育 局 教 育 委 員 会 室
- 3 出 席 者 高 田 教 育 長、後 藤 教 育 長 職 務 代 理 者、伊 倉 委 員、遠 藤 委 員、石 川 委 員、
戸 所 委 員、佐 藤 教 育 総 務 部 長、日 吉 県 立 学 校 部 長、石 井 市 町 村 支 援 部
長、関 根 財 務 課 長、鎌 田 高 校 教 育 指 導 課 長
栗 原 書 記 長、岩 崎 書 記、原 口 書 記
- 4 会 議 の 主 宰 者 高 田 教 育 長
- 5 会 議
- (1) 前 回 議 事 録 の 承 認
- 全 出 席 委 員 異 議 な く 本 件 記 載 ど お り 承 認
 - 高 田 教 育 長 が、石 川 委 員 を 議 事 録 の 署 名 者 に 指 名 し た。
- (2) 報 告 事 項
- ア 県 議 会 令 和 3 年 2 月 定 例 会 概 要 に つ い て
- 関 根 財 務 課 長 (提 出 理 由、会 期、本 会 議 の 質 問、文 教 委 員 会 に お け る 付 託 議 案、
人 材 育 成・文 化・ス ポー ツ 振 興 特 別 委 員 会 に お け る 審 査 事 項、人 材 育 成・文 化・
ス ポー ツ 振 興 特 別 委 員 会 の 意 見・提 言、予 算 特 別 委 員 会 に お け る 付 託 議 案、決
議 及 び そ の 他 に つ い て 説 明)
- イ 令 和 3 年 度 埼 玉 県 公 立 高 等 学 校 入 学 者 選 抜 実 施 状 況 に つ い て
- 鎌 田 高 校 教 育 指 導 課 長 (提 出 理 由、全 日 制 の 課 程、定 時 制 の 課 程 及 び 学 力 検 査
の 結 果 (全 日 制 の 課 程) に つ い て 説 明)
- 石 川 委 員 5 ページ に ある 学 力 検 査 問 題 と 学 校 選 択 問 題 は、昨 年 度 は、数 学 の 学
力 検 査 問 題 と 学 校 選 択 問 題 の 差 が 約 1 2 点 あり、学 校 選 択 問 題 の 数 学 が 難 し す

ぎるのではないかという意見がありましたが、今年度は学力検査問題と学校選択問題の差が6点と縮まっています。一方で今年度は、英語の点数の差が広がっていますが、これはどのように捉えればよいのでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 数学については、昨年度の学校選択問題の難易度が高かったため、今年度は問題の難易度を最後まで受検生が考えて解ける問題を作成しようという趣旨の下、数学の結果はこちらが想定している点数に近づいたと考えております。英語に関しましては、受検生の二極化が起きている印象であり、学校選択問題は大学の入試問題とほとんど同じ分量の問題がありますがその中でも点数を取っているため、英語の実力が高い生徒が増えてきている状況です。その結果が一般の学力検査問題と学校選択問題の差に表れているのではないかと思います。

石川委員 そうすると、中学生の修了時点で英語の実力の差が広がっているということでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 今回の結果からは、難易度が高い学校選択問題でも我々の予想を上回る点数を取っている生徒が多かったと考えております。

石川委員 学力検査問題と学校選択問題の今回の結果については、現役の中学生にフィードバックするのでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 平均点の結果については公表します。なお、飽くまでも平均点であり、点数が低い受検生もいれば高い受検生もいますので、学力の開きについては注意して表現しながらフィードバックをしたいと考えております。学校選択問題の英語の平均点が予想を超えたことは、頑張った中学生が多かったこと、例年と比較して我々の予想を超える高い英語の学力があったこと、そのようなメッセージを伝えていこうと思います。

伊倉委員 募集人員が充足しない学校数が57校、定時制を含めると81校もあることに少し驚きがありました。先ほどの説明の中でもありましたが、中学生から聴取した内容で、高校生の部活動、文化祭、体育祭など青春の楽しい思い出となるような活動を見ることができなかったことも影響したと思います。説明にもあったとおり、発信力の低さが出ているのではないかと感じました。も

う一度、県立高校の魅力をもっと特化して、工夫して発信をお願いします。また、2 ページにある一般募集等における応募状況の専門学科についてですが、人文学科の競争率が低い理由を教えてください。

鎌田高校教育指導課長 人文学科の競争率が低い理由ですが、志願確定者数が22名で入学許可候補者数40名となっています。これは、複数の学科がある学校は複数の希望を出すことができ、この学校は普通科と人文学科がありますので、第2希望まで希望することができます。人文学科が第1希望であった志願者数は22名でしたが、全員合格しており、そして第1希望が普通科、第2希望が人文学科とした受検生も合格し、入学許可候補者数は合計で40名となりました。人文学科がある学校は、県内で1校ですが、高校も志望者を増やすよう工夫をしています。しかし、競争率が低い理由の一つとして、中学3年生が今後の高校生活で人文学科に特化した学びの進路選択を決めかねていることが影響していると考えます。今年度だけではなく、ここ数年は苦戦している状況にあります。

伊倉委員 そうなると中学生が自分の進路の選択として、具体的なものが見えてこないのか、それとも余りニーズがないのか、人文学科という専門学科としてやらなければならないことなのか、今一度検討が必要なのかもしれません。

遠藤委員 昨年度教科書採択に関わらせていただきましたが、英語は、新しい学習指導要領の下、教科書には伝記を読むことや考えさせる内容が多くなっており、対話の内容も以前より難しくなった印象を受けました。そうすると、今後はますます考えさせる内容が増え、前年度の平均点との差が広がるかもしれませんので受検生に実力を付けてほしいと感じました。個人的な考えとして、受検生の平均点は60点前後が理想だと考えますが、国語は、令和2年度と令和3年度を比較すると約10点以上上がっています。国語の平均点が上がった要因について教えてください。

鎌田高校教育指導課長 難易度は昨年度と同様に策定しましたが、一つの要因として、今年度はコロナの影響で中学校3年生の出題範囲を削減しました。中学校3年生で習う漢字、慣用句、四字熟語を対象から外し、その代わりに基本を問

う問題を増やしたところで点数が上がった要因であると考えます。

遠藤委員 英語の場合は、文法だけではなく、高校でも使える英語を試さなくてはいけないと思います。高校の入試の段階からそういったテストに慣れていて、新しい大学入学共通テストに望むことが今後の公立学校の場合は必要だと思いますのでよろしくお願いします。

戸所委員 先ほどの人文学科の説明に戻るのですが、通常であれば、受検者と入学許可候補者数は、入学許可候補者数が少ないわけですが、人文学科に限っては、一人に対して二つの合格を出している理解でよろしいでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 普通科と人文学科がある学校は、普通科を第1希望、第2希望を人文学科として志望できる入試制度になっています。普通科で残念ながら合格ラインに達しなかった受検生が、第2希望の人文学科の選抜において、基準を上回った場合に人文学科で合格になるという制度になっています。したがって、この制度を設けるのは学校の判断になりますが、複数学科があるところは、第2希望を設けることができる制度になっています。

戸所委員 ちなみに人文学科以外にもこのような入試制度のところはあるのでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 理数科がある学校については、例えば理数科で不合格になった受検生が、第2希望で普通科を希望していれば、普通科で選抜を受けることができる制度になっています。第2希望まで志願ができる制度となっています。

戸所委員 そうすると合計の数字は調整するのでしょうか。実際に人文学科が第1希望だけの入学許可候補者数を載せているのでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 第1希望と第2希望に関わらず、最終的に入学許可となった合計人数が表の人数となっています。

戸所委員 それでは、実際に人文学科を受検した人数よりも入学許可候補者数が上回ってもよいという理解でよろしいでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 そのとおりでございます。

後藤教育長職務代理者 平成24年度から倍率が最低になったとの説明がありま

した。1, 359人の卒業予定者数が減ったということですが、来年度は更に減っていくのではないかと思います。公立高校の使命として、進学を希望した受検生は、全て公立高校に入学ができ、一方で競争率を保ちながら頑張って受検をさせるということも大切だと思います。適正な進路指導ができて適正な競争率が生まれると考えますが、公立高校として理想とする平均倍率はどのくらいでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 平均倍率は1.13倍でしたが、倍率が2倍を超える高校もあれば、0という学科もありました。平均倍率の数字がどのくらいが適正かということは、難しいところですが、高校に行きたいと思った生徒が最終的に全員入学できることが公立高校の一つの使命だと考えています。中学校の教員のうち、ほとんどが普通科を卒業している教員が多いのが実態です。そのため、専門学科の実情や魅力もなかなか伝わっていない、理解されていないと思います。私立には工業科や商業科などの専門学科は余りありませんので専門学科があるということが公立高校の特徴であると思います。専門高校の魅力を中学校の先生に理解してもらい、進路指導の先生に伝えていく、高校もホームページだけでアピールするのではなく、例えば、学校説明会で専門高校の魅力を直接中学生に伝えていくなど、多様な希望を持つ生徒たちに公立高校に入学してもらいたいと考えています。

後藤教育長職務代理者 コロナ禍で情報が得にくい状況の中で、受検生は、インターネットや雑誌など様々な媒体で情報を得ていると思いますが、生徒募集で基本となるのが学校の魅力をどのように発信しているか、広報しているかが重要です。進学校では、例えば、「学習塾に行かなくとも大学進学ができる。」をキャッチコピーにするなど、発信している内容は様々です。ホームページも含めて学校の魅力を高めながら、発信できているかが大事であり、専門高校も同様です。そのような観点で見直しを行いつつ、かつ学習指導要領も新しくなりますので、学校の再編をする機会でもあると考えます。平均倍率だけで考慮するものではありませんが、魅力ある学校づくりをいかにするのか、様々なことを総合的に考慮しながら今回の数字の分析をする必要があると思いますのでよ

ろしくお願いします。

高田教育長 様々な御意見を頂きありがとうございました。中学校の卒業生数が年々減少している中で、公立高校としてどのくらいの人数を受け皿にするかというのが一つのテーマです。私立高校に入学する者もいれば、他県に入学する生徒もいます。私立と公立の協議の場で、公立高校の受け皿として、中学校卒業予定者数のおおむね65パーセントを超えない範囲内で決定して募集人員を確定しています。私立高校は普通科が圧倒的に多いですが、公立高校の役目として、農業、商業、工業、家庭、福祉、芸術、看護、例えば、昼間は働きながら定時制に通うなど、いろいろな進路希望を叶えるとともに様々な学べる場をきちんと用意していくことが必要ではないかと思っています。場合によっては、倍率が1倍には満たない学校があったとしても生徒に多様な学びの場を提供することが公立高校の役目で必要だと考えます。一方で、受検生や保護者からも選んでいただくためにも、魅力ある学校にしなければなりません。引き続き魅力ある県立学校づくりに努めてまいりたいと考えています。また、学力検査については、毎年度できるだけ多くの受検生が最後まで粘り強く解ける問題の策定に取り組んでいるところですが、試行錯誤しながら引き続き質の高い問題作成に努めてまいりたいと考えています。

ウ 埼玉県地方産業教育審議会の建議について

鎌田高校教育指導課長 (提出理由、建議名及び建議の内容について説明)

伊倉委員 素晴らしい建議であると感じております。最後に「本建議を真摯に受け止め」とありますので変えるべきところは大胆に変えてほしいと思います。公立高校の役割として専門学科がありますが、指導者の養成・採用においてはこれまでの商業を教えている先生では、マネジメントと専門性の両方を持っていないと難しいと思います。自らの専門性だけでは生徒に教えることは難しい人もいる、逆に教えるのは上手だが、専門性がなかなか時代に追いついていない人もいます。その辺りのバランスについては、センスの問題もありますが、研修で身に付けることは簡単ではないと思います。本建議の「魅力ある商

業教育を推進するための方策（３）「専門性の高い指導者の養成・採用」については、これまでとは時代が違うことを前提に、専門家の方が生徒に教えることができるようになる研修をすることが重要だと考えています。そのことにより普通科を目指す生徒たちが「埼玉県であれば商業科へ行った方がおもしろい。」と思えるような商業科を目指してほしいと感じました。

鎌田高校教育指導課長 教員は自分が経験したものをベースに生徒に教えており、今までの商業教育は簿記の資格を取得させることに重きを置いていました。今後は、簿記だけではなく、実社会に何が役に立っているのか、常に考えさせるよう教員のパラダイムシフトをすることが非常に重要だと認識しています。現在、コロナの影響もあり、ICT環境も変わっています。そういったところをチャンスに変え、今求められているものは何か、教員が意識でき、刺激があるような研修を行っていきたいと考えております。

遠藤委員 大学の商学部や経営学部は伸びていないと感じます。会社を起業するなど商業教育の魅力を伝えきれていないのではないかと思います。そして、私立高校はどんどん商業科を減らしていくのではないかと思います。今後は、今までの商業教育だけではなく、言語を習得しながら、グローバルビジネスでも活躍できるような人材を育成すること、長い目で先を見た学習の教えが必要だと思います。新しい能力、陳腐化しない能力を身に付けなければなりません。教員養成とともに学生と一緒に伸びていく、基礎を築いていく、今までの商業教育ではなく、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの中身を変えていくことが必要だと考えております。

鎌田高校教育指導課長 商業科の内容は、我々大人が実社会にとって役に立つことがたくさんありますが、その感覚が15歳の高校生が見たときに同じような感覚になるのか、そこが問題だと認識しています。実社会で行われている取組などをどのように生徒を引き付けて伝えていけるか、そこが教育として大切ではないかと考えております。

戸所委員 本建議に一つ一つ書かれていることは非常に素晴らしいと思います。先ほど課長の説明の中にもありましたが、先生の基本的な考え方や生徒への育

成の方針の徹底を今後はしなくてはならないと感じました。私自身海外に勤務したことがあります。海外の高校生と日本の高校生の違いは、海外の高校生の方が自分なりの考えを持っていろいろと取り組んでおり、様々なことに興味を持つことや最終的に自らの考えを固めることはかなり進んでいると思います。一方で日本の高校生は、知識はあり、あるいは実践的な教育を受けていますが、自分なりの考え方を固めることは、苦手であると感じます。例えば、どんな職業であっても好きなことをやっていくんだという考え方が一律になっていると感じます。指導する側が生徒に好きなことがあるのであれば、きっかけを与え、教えることができるような教員を養成していくことが大事だと思いました。

後藤教育長職務代理者 かつては熊谷でも商店・商売をやっている家の子供は、熊谷商業高校に通っていました。ところが現在は状況が変わり、商店・商売をやっている家はかなり減少し、シャッター街も大分増え、商業高校を目指す生徒が減りました。また、ソサエティ5.0により、物流や情報の伝達も変わったため、様々な現状を考慮すると従来の考え方から変えなくてはならないと感じています。商業高校を卒業する生徒の就職先は、大半が地元の中小零細企業であると思います。確かに地球規模でグローバル化が進んでいること、現在の日本の経済状況がどのような位置にいるのか、学ぶことも大変重要ですが、まずは地元の中小零細企業を理解すること、そして働くことはどういったことなのか、高校3年間でしっかりと学ぶことが重要だと思います。私も会社を経営しておりますが、地元の中小零細企業が商業高校を卒業した新入社員に何を求めているのか、マーケティングすることが必要だと考えます。私自身、経営者として商業高校の卒業生に望むことは、簿記が当たり前ででき、数字を見られること。さらにITスキルを身に付けていること。そして一番大事なのは、若い柔軟な発想を持っていることです。学校訪問で授業を見ていると簿記の授業をしっかりやられていますし、また情報処理もしっかり時間を取り授業をされていました。しかし、実際に商業高校を卒業した新入社員を見ていると、生きた簿記の知識やITスキルが身に付いているのかと考えると、学校の授業で習うことと実社会で見るものをどうしても別物として線引きしてしまっている印象

を受けます。実際に生かすことができているのか疑問に思うことがあります。コロナ禍によって急速なデジタル化が求められる中で地元の中小零細企業は、即戦力の人材が欲しいと思います。企業の事業内容を理解し新入社員に何が求められているのか、高校3年間で過ごす中で特に就職活動期間においては理解してほしいと思います。そういった中で、教員と地元の企業との交流というのがますます求められていくのではないかと感じます。審議会委員の中でも経営者協会の方や経営者の方もいらっしゃいますが、もっともっと町の商店や地元の中小零細企業の声を反映できればと思います。現実的な話として、商業高校の卒業生の大半が地元の中小零細企業に就職する現状を考えれば、中小零細企業が何を求めているか、どんなスキルを身に付けてほしいのか、そこから遡って新しくなる学習指導要領に反映し、授業を構築する必要があると強く感じました。本建議はホームページからダウンロードできると書いてありますが、今後どのように活用されるのでしょうか。

鎌田高校教育指導課長 今回の報告の後に各学校に通知をします。併せて商業高校の校長会等に今後の商業教育の内容について、リーダーシップを取り、変えてほしいと依頼します。また、実際にマーケティングやビジネスに必要な柔軟な姿勢を身に付ける授業が展開されているか、当課の指導主事が学校訪問をし、啓発してまいります。

後藤教育長職務代理者 4ページの図表2ですが、新しいタイプの商業高校にしようということで、平成25年に新座総合技術高校が学科再編、令和2年に熊谷商業高校が学科改編をしており、併せてカリキュラム等を変更していると思いますが、それにもかかわらず、倍率が下がっています。これはどこに原因があったのか明確にする必要ありますが、新しく学科を再編及び改編したにもかかわらず、生徒募集で苦勞している現状があります。理想を掲げても、改善すべき課題を明確にしても現場では反映できていない、学校の魅力につなげられていないのではないかと感じました。そのため、令和4年がこれから変えるチャンスだと思いますので、絵に描いた餅で終わらせないためにも、学校にただ通知するだけではなく、どのように形を変え、新しい商業高校を作るのか、社会

に送り出す生徒をどう育成するのか、根本的なことを考えてほしいと思います。
本建議は大変素晴らしい内容だと思いますので、これを具現化し、商業高校の卒業生が社会人として活躍できるようにしてほしいと思います。

鎌田高校教育指導課長 本建議について実際にどのように活用されているのか、1年掛けて検証していきたいと考えております。

後藤教育長職務代理者 学校任せではなくて、教育委員会として対応し、議論してもらえればと思います。

高田教育長 いろいろと御意見を頂きまして、ありがとうございました。令和3年度の倍率が0.92となり、過去10年間でも最も低い倍率になっています。専門学科の大きなくくりとして農業科、工業科、商業科になりますが、農業高校では、例えば、牛を飼育し、牛乳を搾乳し、アイスに加工して、販売できる、一連の流れを目に見える形で体験することができます。また、工業高校はプログラミングをしてロボットを動かすことやロケット開発やソーラーカーを開発して大会に出場するなど、農業高校や工業高校は中学生にとって目に見える形で魅力が伝わりやすい学科だと思います。一方、商業高校はパソコンが整備されており、昔は余りパソコンが整備されていなかった普通科と差別化できましたが、普通高校のICTの環境が整備される中で差別化することが難しくなりました。商業高校は、中学生に見た目で訴求する力が今一つ不足するようになったと思います。そういった現状の中で商業高校の教育内容を充実し、どういった授業を受けることができ、将来にどうつながるのか、募集という観点では見える化をすることが必要ではないかと思います。以前のように商業科に入学してそろばん、簿記の資格を取得して地域の金融機関に就職していくというロールモデルを提示することが難しくなってきていますので、今後は幅広く視野を見据えた上で商業教育全体の魅力づくりにしっかり取り組んでいきたいと考えております。

(3) 次回委員会の開催予定について

5月11日(火) 午前10時